

## 幼年時の矯正について

### ① 上顎が狭い場合

歯列は口唇、舌などの口腔周囲の筋肉や、普段の生活習癖により影響を受けます。

特に、離乳が遅かったり、ゆびしゃぶりが長く続くと口唇の力によって前歯が狭くなり、上顎全体が小さくなります。このような状態になりますと、八重歯になる確率が高くなったり、前歯がガタガタしたような歯列になってしまいます。身長が増加が止まり始める10歳までには、矯正治療による介入が必要になります。

以下のような装置を用いて歯列・顎を拡大させます。



### ② 受け口

通常上の前歯は下の前歯より前に出ています。しかし、幼年期の口腔習癖により、顎骨の状態に以上がないにもかかわらず、下の前歯が上の前歯より前に出ている場合があります。このような場合には、ムーシールドという装置を用いて筋肉の位置を改善し、正常な咬合が可能になるように誘導します。

受け口の状態



装置を入れているところ



歯列不正があると、審美的な問題があるのに加え、虫歯や歯周病になるリスクもとても高くなります。歯列不正は早期に適切な介入を行えば、ほとんどの場合で正常な咬合に直すことができます。

